

「100万ドル食事」と社会奉仕寄付金の贈呈

ロータリーには「100万ドル食事」と呼ばれるものがありますが、これは豪華な食事を意味するものではありません。世界中のロータリー会員が50万人くらいだった頃、例会の食事を月1回粗食にして1人当たり2ドル節約し、総額100万ドルの資金をロータリー財団をはじめとする、その他の奉仕活動に充てたことから生まれた言葉です。

当クラブでも月に1回程度、例会の食事をいつもよりちょっと粗食にして、その節約分を社会奉仕寄付金として、あらゆる方面の活動にお役立て頂いております。

今年度は、「風に立つライオン」医療支援基金、マダム・バタフライ国際コンクール運営への協賛、長崎ハンドベルコミュニティ（ハンドベル補修費補助）へ、それぞれ寄贈することになり、早速、河野会長より、次の2団体への贈呈が行われました。



「風に立つライオン」基金へ
(11月15日)



マダム・バタフライ国際コンクール運営へ
(11月17日)